

第11期の各分科会等の審議予定等

分科会等名	主な検討事項	開催状況
研究計画・評価分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究開発課題の評価 ○分野別研究開発プラン(仮称)及び分野別研究開発プログラムの策定 ○研究開発プログラム評価の新たな仕組み 	前回：8月27日 次回：1月～2月(予定) 年間開催数：4回程度
資源調査分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○日本食品標準成分表の次期改訂への検討 	前回：8月27日 次回：12月(予定) 年間開催数：2回程度
学術分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○学術研究の振興方策等 ○全国的な共同利用・共同研究体制の強化について ○研究費制度の改善・充実について ○人文学・社会科学の振興について 	前回：9月2日 次回：— 年間開催数：4回程度
海洋開発分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○第4期海洋基本計画策定に向けた、今後の海洋科学技術の在り方の検討等 	前回：5月19日 次回：— 年間開催数：2回程度
測地学分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○地震火山観測研究計画の進捗管理 ○地震火山観測研究計画に係るレビュー報告書の取りまとめ ○次期地震火山観測研究計画の策定に係る検討 ○火山の観測研究体制の高度化と最適化を図るための検討 	前回：5月18日 次回：— 年間開催数：2回程度
技術士分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○技術士の国際的通用性 ○技術士の普及拡大、活用促進 ○技術士の資質向上 	前回：4月26日～27日 <書面審議> 次回：— 年間開催数：2回程度
基礎研究振興部会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎研究の社会的意義・価値について ○数学・数理科学イノベーションについて ○世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)について 	前回：8月2日 次回：— 年間開催数：5回程度
研究開発基盤部会	<ul style="list-style-type: none"> ○先端的な研究施設・設備等の研究基盤の整備・高度化・利用 ○複数領域に横断的に活用可能な科学技術に関する事項 	前回：10月7日 次回：— 年間開催数：4回程度
産業連携・地域振興部会	<ul style="list-style-type: none"> ○スタートアップ創出・本格的な組織対組織の産学官連携等に関する事項 	前回：7月30日 次回：— 年間開催数：2回程度
生命倫理・安全部会	<ul style="list-style-type: none"> ○ライフサイエンスにおける生命倫理及び安全の確保に関する事項 	前回：4月9日 次回：12月中(予定) 年間開催数：3回程度
国際戦略委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○科学技術・学術分野の活動の国際戦略に関する事項 	前回：6月9日 次回：— 年間開催数：2回程度
情報委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○情報分野における研究開発の推進方策に関する検討 ○次世代計算基盤など学術情報基盤のあり方に関する検討等 ○本委員会の所掌に属する課題の評価 	前回：9月22日～27日 <書面審議> 次回：10月26日 年間開催数：7回程度
人材委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○科学技術・学術分野の人材育成・確保について ○博士課程学生を含む若手研究者の育成・支援方策等について 	前回：4月28日 次回：10月21日 年間開催数：3回程度

科学技術・学術審議会の構成について

(令和3年10月現在)



第11期科学技術・学術審議会各分科会等における活動について

科学技術基本法改正や第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、第11期科学技術・学術審議会各分科会等において、取り組む活動は以下のとおり。

○研究計画・評価分科会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、文科省として行うべき研究及び開発の計画等について、分科会下等の委員会との連携をとり審議を進める。
- ・上記計画等の下で文科省として推進する「研究開発課題」については、引き続き、事前・中間・事後評価を行う。
- ・また、研究開発プログラム評価の導入について、評価の屋上屋排除及び負担軽減に配慮しつつ実効性のある評価の在り方について審議を行う。
- ・なお、計画等の審議や評価を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に向けた取組の観点が適切に含まれていることを意識する。

○資源調査分科会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画で求められる「知」の創造に資するため、資源の総合的利用に関する栄養成分の基礎的データ集として「日本食品標準成分表」を位置づける。
- ・日本食品標準成分表の充実・利活用を含めたあり方の検討にあたっては、食品成分委員会を設置し、次期改定方針やあり方に加え、①収載食品の更新・充実、②デジタル社会での多様な利用を見据えた食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上、③国内外動向調査を行う。
- ・特に、オープンデータの意義等を踏まえた食品成分データとするため、一般成分の決定手順や各段階での様式のシステム化など必要な検討を行う。また、ドラフト版の公開や関係省庁の利用状況を把握による多様な利用に対するデータ提供などの方策を検討する。

○学術分科会

- ・学術の振興に関する重要事項を調査審議する立場から、「総合知」の創出・活用、ポストコロナ下における科学技術・イノベーション政策の在り方等について検討を行う。「総合知」の創出・活用については、「総合知」の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針（R3.8.24）」をとりまとめた。これも踏まえ、具体的に以下の審議を行う。
- ・共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の期末評価等に係る審議、並びに「連合体」の取組等を含めた大学共同利用機関法人の在り方について
- ・これまでの科研費改革の検証及び制度全体の不断の見直しを図ること、並びに国際的ネットワークの中で実施すべき研究の支援や若手研究者育成方策等について
- ・人文学・社会科学分野の研究データ共同利用のための基盤整備やデータサイエンスの応用促進の在り方等、「総合知」の創出・活用やポストコロナ下の新たな価値創造へ向けた人文学・社会科学分野への期待に応えるための振興方策について

○海洋開発分科会

- ・持続可能な開発のための国連海洋科学の10年（2021-2030）、第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえつつ、第4期海洋基本計画に向けた海洋科学技術の在り方や推進方策について検討を行う。
- ・上記の検討に当たっては、総合知の創出・活用等の観点も念頭に置きながら審議を進める。
- ・文部科学省として推進する海洋科学技術等に関する研究開発課題について、引き続き、事前・中間・事後評価を行う。（令和3年度においては、事前・中間評価は該当なし。）

○測地学分科会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、引き続き、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第2次）」の推進及び進捗管理を行う。
- ・上記基本計画を踏まえて、地震火山観測研究計画のレビュー及び次期地震火山観測研究計画の策定に向けた検討を行う。
- ・火山の観測研究体制について、その高度化と最適化を図る観点から「次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト」及び「火山機動観測実証研究事業」のフォローアップを行う。
- ・なお、上記の検討やフォローアップを行うに当たっては、「総合知」の活用や社会実装に向けた取組を含む、地震・火山災害に対するレジリエントで安全・安心な社会の構築を目指す様々な取組の観点が適切に含まれていることを意識する。

○技術士分科会

技術士資格の国際的通用性の確保の観点を十分に加味した上で、以下の検討を進める。

- ・技術士第一次試験の適正化及び外国人エンジニア（主に外国人留学生）が受験しやすい試験方法等について
- ・技術士補制度における指導技術士の技術部門限定の是非について
- ・IPDを通じた資質能力開発支援を達成するためのロードマップ作成及びコミュニティ形成について
- ・技術士の権利義務に係る更新制の導入や資格活用促進を視野にいたしたCPD活動の促進について
- ・総合技術監理部門の技術士資格を得るために必要な能力の測定方法や名称等について
- ・文部科学省と技術士会が連携した技術士資格の活用の周知について

○基礎研究振興部会

科学技術・イノベーション基本計画における基礎研究の位置づけを踏まえて、基礎研究の共通認識（基礎研究の定義、新型コロナウイルスの影響を含む国内外の動向等）を確認し、

- ・「知」の蓄積及び広がりを持つ意義・価値及び社会的効用
- ・そのような意義・価値を評価する方法
- ・社会にわかりやすく広報する方法
- ・上記の取組に資する人材育成の在り方（研究支援人材等も含む）

などの観点を例として、基礎研究の社会的意義・価値について討議する。

○研究開発基盤部会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえ、先端的な研究施設・設備等の研究基盤の整備・高度化・利用や、研究設備・機器に資する基盤技術などの複数領域に横断的に活用可能な科学技術に関する事項に係る審議を進める。
- ・その際、文科省が進める「先端研究基盤共用促進事業」について、事業の推進方策に関する検討を行うとともに、採択機関が行う研究設備・機器の共用に関する先進的な取組の展開を進める。
- ・さらに、今年度中に国が策定する研究設備・機器の共用化のためのガイドライン等について、その内容や、来年度以降の大学等における活用方策等に関する助言を行う。
- ・なお、研究基盤の整備等に関する審議を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に向けた取組の観点も意識する。

○産業連携・地域振興部会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、文科省として行うべき研究開発成果の普及・活用の促進をはじめとする産学官連携の推進や地域が行う科学技術の振興に対する支援に関する重要事項について審議を行う。
- ・スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成に向けた動きや、地域の中核となる大学の振興等に関する政府での検討状況を踏まえつつ、主に、大学発スタートアップ創出・本格的な組織対組織の産学連携等に関する検討を行う。

○生命倫理・安全部会

第6期科学技術・イノベーション基本計画等に関する動向等を念頭に置きつつ、具体的には以下の検討事項の審議を進める。

- ・個人情報保護法の令和2年改正及び令和3年改正の見直しの状況等を踏まえ、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等の関係指針の見直しについて検討する。
- ・総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）生命倫理専門調査会で検討中の以下の基礎的研究について、今後、その取扱いの方向性を踏まえ、関係指針の見直しを検討する。
 - (1) 遺伝性・先天性疾患研究を目的とした新規作成胚にゲノム編集技術等を用いる基礎的研究
 - (2) ミトコンドリア病研究を目的とした新規作成胚に核置換技術（卵子間核置換）を用いる基礎的研究
- ・このほか、ライフサイエンスにおける生命倫理及び安全の確保に関する動向等を踏まえた調査・検討を適時実施。

○国際戦略委員会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画において、科学技術の国際展開に関する戦略を策定することとされたことを踏まえ、令和3年3月から6月にかけて審議を行った。
- ・審議を踏まえ、令和3年6月に社会の変化を踏まえ、知の発展による世界貢献を含む国際交流・協力の目的と考慮すべき観点や取組の方向性について再確認・整理した「科学技術の国際展開の戦略的推進に向けて」をとりまとめた。
- ・同とりまとめに基づいた施策の具体化について、必要に応じて議論を行う。

○情報委員会

- ・Society 5.0、データ駆動型社会への変革に的確に対応し、研究のDX とそれを支える学術情報基盤のあり方や、情報分野における研究開発の推進方策に関して議論を行う。
- ・次世代計算基盤検討部会等の下部組織を設置し、次世代計算基盤など学術情報基盤のあり方に関する検討等を行う。
- ・また、本委員会の所掌に属する課題の事前・中間・事後評価を行う。
- ・なお、上記の議論や評価を行うに当たっては、「総合知」の創出・活用に留意する。

○人材委員会

- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画等を踏まえて、科学技術・イノベーション人材の育成・確保策について、審議を進める。
- ・特に、今期の人材委員会においては、博士後期課程学生を含む若手研究者への支援方策の在り方について幅広く検討を行うことを予定。
- ・具体的には、博士人材のキャリアパス確保について中心的に議論を行い、博士人材の産業界への進出や社会的地位の向上等に向けて、政府としての施策や関係機関との連携方策などについて検討し、とりまとめる。
- ・なお、検討にあたっては、若手研究者や大学、企業等に対するヒアリングを実施予定。
- ・その他、第10期人材委員会で策定した「ポストドクター等の雇用・育成に関するガイドライン」のフォローアップや、女性研究者、URA等の多様な研究人材の支援の在り方についても、必要に応じて議論を行う予定。